

◇平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果分析◇

新聞報道や帯広市のホームページ等で本年度実施された全国学力・学習状況調査の北海道と帯広市の結果が公表されました。また8月末には、本校の結果についても学校へ届きました。

北海道の状況については、全国の平均正答率との差が小学校国語B、算数A、中学校数学A・Bの4教科で縮まり、特に中学校の数学においては全国平均との差が1ポイント未満となるなど、改善の傾向が見られるものの、すべての教科において全国平均に届いていない状況にあります。

本校の状況ですが、国語B・算数A・算数Bにおいては着実に全国平均との差を詰めており、とくに算数Aにおいては平均正答率が大きく上昇しています。日々の授業や家庭学習・宿題での地道な取組の成果が表れてきていると思われます。

以下、今回の本校の結果を分析しましたので、今後の子どもたちの学習に生かしていきたいと考えています。

◎問題ごとにおける全国・北海道と本校の平均正答率の比較と分析

(全国平均と比較・道平均と比較)

* ☆印は正答率が全国平均より高かった問題

* ○印は正答率が道平均より高かった問題

* ★印は正答率が全国平均より5%以上低い問題

* ●印は正答率が道平均より5%以上低い問題

1. 国語A (主として「知識」に関する問題)

- 1 漢字を読む
・快晴 (☆・) ・貯金 (☆・○) ・省く (★・●)
漢字を書く
・種 () ・親しい (★・●) ・相談 ()・○)
- 2 資料を読み、どのように話し合いをしているかの説明を選択する。(★・●)
- 3 助言をもとに下書きを書き直したのから、助言の内容を2つ選択する。
(★・)
- 4 取材メモを追加した理由を選択する。()
- 5 案内図・パンフレットから、グループの希望に合う場所を選択する。
(☆・○)
- 6 物語に登場するおばあさんがどのような人物なのかを考えた根拠となる表現を選択する。(★・●)
- 7 書写の見直しのポイントを選択する。(★・)
- 8 ローマ字
ringo ()・○) asatte ()・○) ひゃく (hyaku を読む) (★・●)

* 言語についての知識・理解・技能のうち、漢字の読み・書きに着目すると、全道・全国平均を上回った問題も多く、全体的に全国平均に近づいています。宿題や家庭学習への取組や、日常のきめ細やかな指導の効果が表れてきていると考えています。

* 話すこと・聞くことについては昨年同様全道・全国平均を下回っています。今後も引き続き、国語の時間に限らず、主語を捉えることや話の趣旨を捉えて聞き方を工夫することなどを大切にしたい指導を行ってまいります。

2. 国語B（主として「活用」に関する問題）

- ① 【話すこと・聞くこと】
1. メモ作成の工夫についての説明で、当てはまらないものを選択する。(.)
 2. 質問の意図として適切なものを選択する。(☆・○)
 3. 相手の発言を受けて、メモに沿った質問を書く。(条件3つ)
 ①メモの内容を使って②店長の発言を受けて③30字以上50字以内
 (☆・○)
- ② 【書くこと】
1. グラフからわかったことを選択する。(.)
 2. (1) 課題について資料からわかったことを書く。(条件3つ) (☆・○)
 ①図2からわかること②書き出しにつづくように③40字以上60字以内
 (2) 資料からわかる結果をもとに、解決方法について書く。(条件3つ)
 ①表2から考えられること ②「テレビやゲーム」「メール」を使って
 ② 25字以上50字以内 (★・)
 3. まとめの中で成果だけではなく課題も取り上げた効果の説明として適したものを
 選択する。(★・●)
- ③ 【読むこと】【書くこと】
1. 本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する。(★・)
 2. 資料からわかる正しい順番を選択する。(.)
 3. 紹介したい内容をまとめて書く。(条件3つ)
 ① 谷口さんの「特に心に残ったこと(喜び→やりがい)」が伝わるように
 ② 資料2から取り上げて
 ③ 40字以上60字以内で (★・●)

*全国平均正答率との差が昨年度より縮まっています。

*国語Bでは、設問1の二と三で全国平均・全道平均を上回りました。質問の意図を捉えたり、話し手の意図を捉えたりして話の展開に沿って質問することができています。

*チャレンジテスト等を通して、教科書にはない文章を読んで答えたり、指定された条件に合わせて答えたりすることに少しずつ慣れてきていることがわかります。今後も引き続き、自分の考えを整理し、表現する活動を国語に限らず各教科・領域で行っていきます。

3. 算数A（主として「知識」に関する問題）

- ① (1) $\square \div 0.8$ の商の大きさについて正しいものを選択する
 $\square \div 0.8$ の商は、 \square より大きくなる。(.)
- (2)
$$\begin{array}{r} 2.1 \\ \downarrow 10 \text{ をかける} \\ \boxed{ア} \end{array} \div \begin{array}{r} 0.7 \\ \downarrow 10 \text{ をかける} \\ 7 \end{array} = \boxed{イ}$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{ア} \cdots 21 \\ \text{イ} \cdots 3 \\ \text{ウ} \cdots 3 \end{array} \right. \quad (\star \bullet \bullet)$$

(3) $48.1 \div 1.3$ の答えが 37。答えの確かめの式

$\boxed{\text{エ}} \times \boxed{\text{オ}}$ を計算して、 $\boxed{\text{カ}}$ になるかどうかを確かめる。

エ・・・37

オ・・・1.3

カ・・・48.1 (★・)

2 整数・小数・分数の計算問題 (4問)

(1) $905-8$ (★・●) (2) $4.65+0.3$ (★・●)

(3) $18 \div 0.9$ (☆・○) (4) $2/9 \times 3$ (・○)

3 (1) 2つの数の大きさを比べて不等号を書く

① $75 > 25$

② $104 < 112$ (・)

(2) $\boxed{7.1}$ $\boxed{7}$ $\boxed{7.01}$ の3つの数

いちばん小さい数 7

いちばん大きい数 7.1 (・)

4 1 m^2 当たりの人数を求める式を書く。 $14 \div 8$ (☆・○)

5 図から三角形の高さを選択する。 (☆・○)

6 三角定規 4 枚でできる形を 3 つ選択する。 (・)

7 直方体の底面に垂直な面を全て選択する。 (★・)

8 テープ図から、赤の部分の割合の大きいものを選択する。 (☆・○)

9 (1) 前に 10 人、後ろに 19 人並んでいるときの、並んでいる人の数 (完答)

式 $10+1+19$ 答え 30人 (・)

(2) 割合を表す数直線の数値を書く

バスの定員 60 人の割合・・・100%

定員より 20% 多い人数の割合・・・120% (・)

* 四則計算では、昨年度同様に小数の加法 (昨年度は減法) で全道・全国平均を下回りました。位をそろえて計算することを忘れないように、けいさんタイムやチャレンジテストを活用した繰り返し学習を継続することが大切です。

* 今年度の算数 A においては、全国平均正答率との差を大きく縮めています。日頃の授業改善や、基礎・基本の定着のための具体的な対策等が有効であったと考えられます。



4. 算数B（主として「活用」に関する問題）

- 1 さまりの発展的な考察（面積調べ）
- (1) 1 辺が9cmの正方形→縦を-1cm, 横を+1cmしたときの面積
式) $8 \times 10 = 80$ 80 cm^2 (☆・○)
- (2) 1 辺が9cmの正方形→縦を-2cm, 横を+2cmしたときの面積が 4 cm^2
より小さくなることの説明(よし子さんの考えをもとにして記述する)
(★・●)
- 2 日常生活の事象における数学的な表現の活用と解釈（ハードル走）
- (1) 12mのところから5m間隔でおかれた4つ目のハードルまでの距離を求める
式) $12 + 5 \times 3 = 27$ 答え 27m (★・●)
- (2) 目標タイムを求める式と答え
式) $8.1 + 0.4 \times 4 = 9.7$ 答え 9.7 秒 (★・●)
- (3) 0.3, 0.4 はどのような時間を表しているか説明する。(記述)
(例) ハードル 1 台あたりに増える時間 (・○)
- 3 日常生活の事象の数学的な解釈と根拠の説明（メダルづくり）
- (1) 3人の式は, それぞれ何を求めるための式かを選択する。 (★・●)
- (2) 1 辺が9cmの正方形を24個かくことができるわけを書く(記述) (・)
- (3) 正方形の中に円を描くとき, コンパスの先を合わせる点を選択 (☆・○)
- 4 資料の読み取りと判断の根拠の説明（本の貸し出し冊数調べ）
- (1) 一人当たりの貸し出し冊数を求めるために必要な数を選択する。 (★・●)
- (2) 4月から7月までの貸し出し冊数について, 表1・表2だけではわからないものを選択する。 (★・●)
- (3) 5月から6月までの貸し出し冊数の変化の様子について述べている意見が正しくない
わけを, グラフから読み取れる貸し出し冊数に着目して言葉や数を使って書く。
(・○)
- 5 図形の構成と論理的な考察（三角定規でつくる形）
- (1) $360 \div 120$ は, どのようなことを計算している式かを書く。(記述)
※360と120が何を表しているかわかるように。 (・○)
- (2) 三角定規2つでつくった四角形を並べてできる形を選択する。 (・)

*北海道や全国の平均正答率との差があるものの, その差は確実に縮まってきています。
*答えに至るまでの過程を説明するだけでなく, ノートに記述したり, 図や表, 式, 言葉(算数の用語)を結びつけたりしながら学習の理解を深め, 定着を図っていく必要があります。
*問題の意図を捉える力をつけるためにも, 教科書や単元テストにはないタイプの問題に取り組ませる機会を増やしていく必要があります。(チャレンジテストの活用等)



◇児童質問紙から◇

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*一部抜粋

- 朝食を毎日食べている **本校 88.2%** 全道 84.9% 全国 87.3%
- 平日の1日当たりのテレビ・ビデオ・DVD時間が4時間以上
本校 25.0% 全道 18.8% 全国 16.0%
- 平日の1日当たりのゲーム時間が4時間以上
本校 13.2% 全道 11.3% 全国 8.2%
- 平日の1日当たりの携帯・スマートフォン使用時間（ゲーム以外）が4時間以上
本校 3.9% 全道 4.4% 全国 3.0%

6年生児童の7割以上が携帯電話やスマートフォンを使用していると答えています。家庭の中でのルールをしっかりと決めて使用することが大切です。

- 平日の1日当たりの読書時間

2時間以上	本校 7.9%	全道 6.8%	全国 6.8%
全くしない	本校 32.9%	全道 23.8%	全国 20.6%
- 平日の1日当たりの放課後の学習時間

3時間以上	本校 1.3%	全道 5.7%	全国 10.8%
2時間以上3時間未満	本校 13.2%	全道 11.5%	全国 14.7%
1時間以上2時間未満	本校 28.9%	全道 37.5%	全国 37.0%
30分以上1時間未満	本校 35.5%	全道 30.7%	全国 25.4%

啓西小学校では「家庭学習のすすめ」の中で、「高学年 60分以上」「中学年 60分」「低学年 30分」を目安として設定しています。遊びの時間と学習の時間をしっかりと区別すること、特に高学年では子どもが学習時間を考え、終わりまで集中して取り組む力が求められます。今後も家庭学習の手引き等を活用していきます。

- 新聞を読んでいるか

ほぼ毎日読んでいる	本校 9.2%	全道 9.5%	全国 8.9%
ほとんど、または全く読まない	本校 48.7%	全道 51.0%	全国 54.7%
- テレビやインターネットのニュースを見るか

よく見る	本校 64.5%	全道 56.1%	全国 57.2%
------	-----------------	----------	----------

新聞をほとんど読まないという児童が約半数となっていますが、テレビやインターネットのニュースを見る児童が約85%と多くを占めています。ここからも、児童のスマートフォンやインターネットの使用率の高さがうかがえます。

◆改善に結びついた取組・これからも継続したい取組について

(1) 学び方の定着

テストで何を聞かれているのか、何を答えればよいのかをしっかりと理解していなければ、本来の力を発揮することはできません。6年生は宿題等も活用して、5年生の終わりからたくさんの過去問題に取り組みました。過去問題を解くことは、今までの学習の復習とともに、何を聞かれているのか、何を答えればよいのかを理解するうえで非常に効果がありました。

今回も該当学年だけではなく、3年生や4年生で学習した内容が出題されていました。また、年に数回のチャレンジテストでも、調査問題の過去問題・類似問題が出題されています。どの学年でも、単元テストとは違うこういった形式の問題に慣れていくことが有効です。

(2) けいさんタイム

昨年度は算数Aの結果を受け、10月より火曜日の朝に「けいさんタイム」を設定し、全職員で「子どもにつく指導」を行ってきました。計算が苦手な子でも最後までやり遂げられる内容とし、全校的な取り組みとなっています。また、前学年の問題を行うことで過去の学習内容を想起でき、現学年の内容理解にも有効であったと考えられます。

(3) 授業改善

「算数の授業がよくわかる」と答えた児童が8割以上となっていたことから、「わかる」算数の授業を目指した日々の授業改善が子どもの学力と結びついたことがわかります。今後も校内研究を通して、より一層「見通しを持たせる」ことで学習意欲を高め、「わかる」「できる」算数授業を目指していきます。

(4) 生活リズムチェックシート

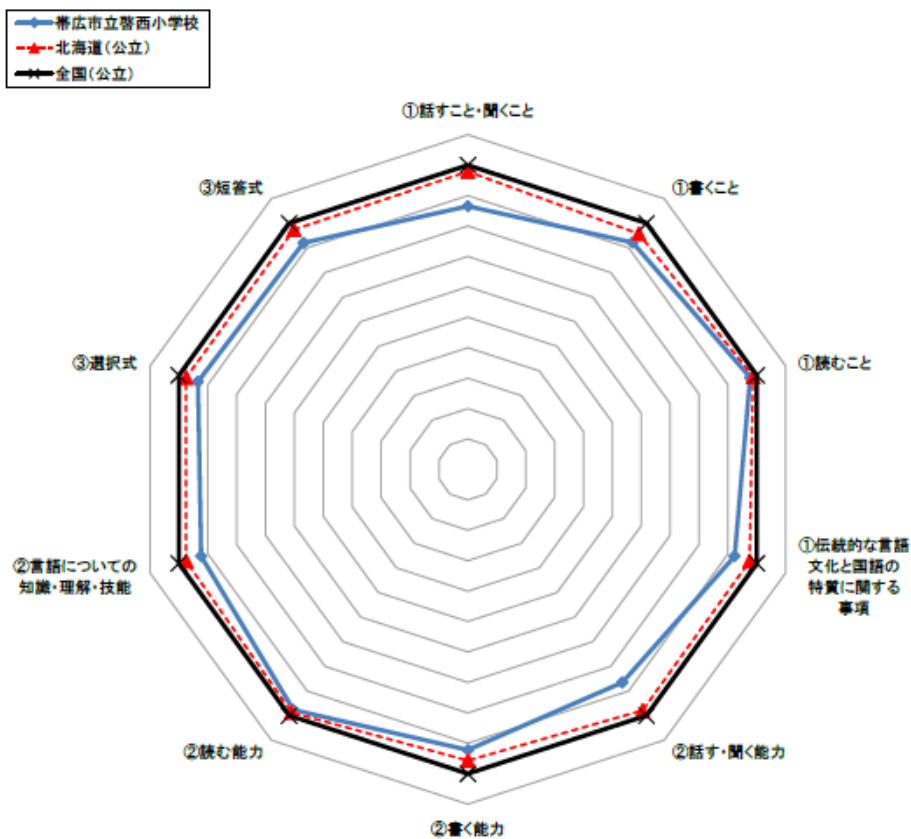
ゲームやテレビの時間が長く、新聞や本を読む時間が少なくなっていることから、生活リズムチェックシートの取組で生活時間を見直すことが大切です。

(5) インターネット・SNSのルール・マナーの指導

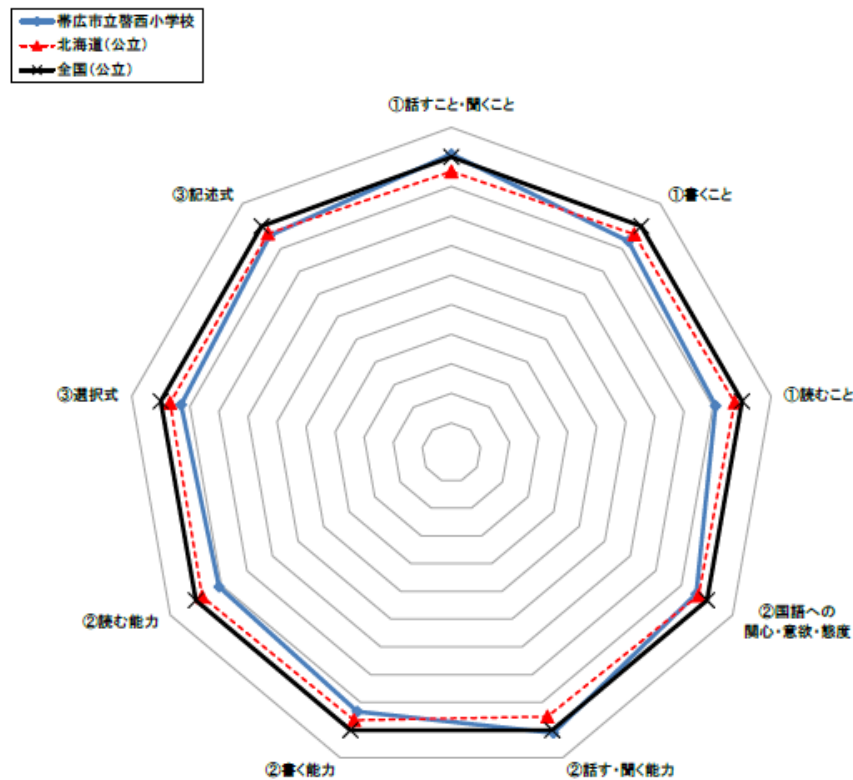
スマートフォンの所持率(使用率)が高いので、情報モラルに関する指導を引き続き行っていきます。



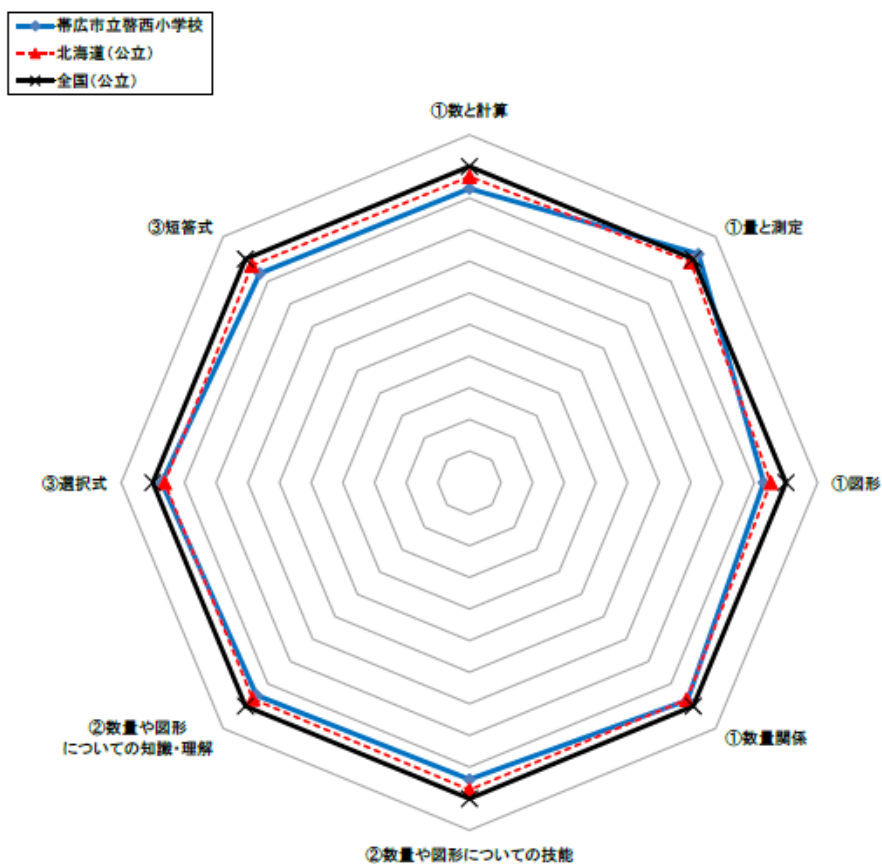
帯広市立啓西小学校の小学校国語A



帯広市立啓西小学校の小学校国語B



帯広市立啓西小学校の小学校算数A



帯広市立啓西小学校の小学校算数B

